



[趣旨説明]

日本語教育センター長
異文化コミュニケーション学部教授
丸山 千歌

○数野 豊田先生、ありがとうございました。

では、講演に参ります。本シンポジウムのコーディネーターは、日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部教授の丸山千歌先生です。では、丸山先生にマイクをお預けいたします。よろしくお願いいたします。

○丸山 皆様こんにちは。日本語教育センター長の丸山と申します。本日は、日本語教育センターシンポジウムにお越しくださいますありがとうございます。本日は、「短期日本語プログラムは大学の国際化にどのように生かせるか」、というタイトルで、今、豊田先生からご紹介いただきました通り、短期日本語プログラムの中の、日本文化社会講義を中心に取り上げ、その講義やフィールドトリップを通した学部との連携について議論を行ってまいります。

私は趣旨説明とともにこの企画の背景を説明させていただきます。昨年度夏と冬に2回トライアルを実施、今年度が本格実施で、ちょうど3回実施しております。今は次の冬の実施を控えているところでございますが、この短期プログラムがどのようにでき上がって、そして、本日焦点を当ててディスカッションしていく日本文化社会講義というのをどのような考えで作ってきたか、それから、実際にどのような実践があるかということについて、ご説明を申し上げたいと思います。【スライド①-1】

本日のシンポジウムでございますが、このような流れで進めてまいりたいと思います。まず私が、簡単に20分ほど趣旨説明と短期日本語プログラムの設計についてご説明いたしまして、その後、4人の先生方に授業実践、連携例についてご報告いただきます。それぞれ約20分を予定しております。その後、休憩を

少し入れまして、今度は国際化戦略、キャンパスの国際化の観点から、お二人のコメンテーターの方をお迎えし、その後、フロアを交えてのディスカッションで4時に終了する。そのような形で進めてまいります。**【スライド①-2】**

まず、日本語教育センターですけれども、2011年に本学で設置されまして、2012年から、この日本語教育センターシンポジウムを年1回、12月のこの時期に実施しております。5回、このようなテーマでやってきておりまして、今年が第6回目ということになります。**【スライド①-3】**

日本語教育センターの主な授業でございますが、日本語教育プログラム、それから、日本語相談室、それから、スピーチコンテストや漢字検定などを行っております。これに本日取り上げる短期日本語プログラムが加わってまいります。**【スライド①-4】**

ここから、短期日本語プログラムがどのようにできてきたかということについてお話ししてまいりたいと思います。**【スライド①-5】** 本学における国際化では、「Global 24」というのが掲げられておりますが、その中で、留学生受け入れについては、2014年のときは、本学の留学生の人数は約500名、これを2019年には1,000名に増やして、その次の2024年には2000名を目指していきますというような目標が掲げられているところでございます。**【スライド①-6,7】**

本学が受け入れている留学生の種類ですけれども、まず、正規の学部留学生、それから大学院留学生、これが学位を取得するグループでございます。それに、交換留学、半年から1年の交換留学の学生たちがいて、ここに今度は、本日お話が出てきます短期プログラムの学生たちが入ってくる。この学生たちは科目等履修生の位置付けで、単位を付与する、このような形で開始しまして、これからは短期プログラム生として位置付けられます。**【スライド①-8】** その結果、日本語教育センターの事業に、新しく短期日本語プログラムという、大切な柱として立ってきました。こちらは国際化推進機構との共同開催ということで、国際化推進機構と常に連携を取りながら、進めてきております。**【スライド①-9】**

どんなふうに短期プログラムをつくってきたかということですが、2015年ぐらいに、日本語プログラムをつくっていかうということで、実際に動いていくんですけれども、そういった話が出てくる前に、少し準備期間というか、情報をためていく期間というのが、今、振り返るとあったなと思っています。それは2013年、それから2014年のときだったんですけれども、国際センターからの要請を

受けて、国内の短期プログラムを既に先行して実施している大学数校にヒアリングを実施しました。

そういった情報を踏まえたところで、2015年に、いよいよ短期日本語プログラムをつくっていこうということになるのですけれども、後発の私たちが、どういふふうに短期プログラムをつくって成功させていくのかというところで、幾つか課題がありました。基本的な設定というのはこのような形になっています。まずは、授業料を高めを設定する。授業料は結構大事なポイントです、だいたい国内の短プロはこのぐらいという相場が私のほうにも、そのころはヒアリングによってできていまして、それをお示ししながら相談を重ねていったのですが、大学から提示された授業料がかなりの高めの設定だったんですね。これは国際化推進機構の機構長の意向だったんですけれども、でも、ここにはなるほどと思う背景がありました。例えば、立教の学生が英語圏に語学留学をするとき、どのくらいの授業料を払っているかということを考えたときに、日本語がそんな安くていいのかと。もっときちんと日本語の位置づけというのを考えて展開していくべきではないか、立教でそれを成功させてやっていこうというようなお声掛けでございました。そういうご意見を伺うと、なるほどと思いましたし、やっぱりこれは何とか形にして成功していきたい、自分たちの立教で、その実践例をつくりたい、そういう気持ちになっていきました。

もう一方で、この短期日本語プログラムができた背景と関係あります。もちろん留学生を受け入れるという前提がありますけれども、協定校の開発、外に立教生を留学生として送り出していく、そういった送り出し先を確保するために、協定先が必要になってくるんですけれども、その開拓に短プロを活用していくという考えがありました。そのときには、日本語プログラムを持っていない相手先もあるので、初級のプログラムで展開してはどうか、ということで、まずは初級でいきましょうという話になりました。

定員は少しサイズ、マネージ可能なところから始めたい、という考えがございまして、定員20というところでまず始めて、きちんと成功するパターンを確認したところで、少しずつ発展させる。そういうような形でやっていきたいと考えました。その結果、基本形がこのような形になっております。

こういった3つの要件を満たしながら、後発である自分たちで、まだ世に知られていない立教の短プロなんですけれども、後発であることを生かして、立教ら

しいプログラムができないか。ここから模索が始まりました。【スライド①-10】

まず短期日本語プログラムのコンセプトをどうしようかと考え、立教大学での学生生活というのを、超短期の数週間のプログラムの中で体験してもらうといったことを考えることにしました。短期日本語と名前を掲げるくらいなので、1番は日本語クラスというのがありますし、もちろん私たちは日本語教育センターです、ここは自信がございます。【スライド①-11】これが昨年度、一番初めに短期日本語プログラムが始まる前の1カ月前に、全体会で打ち合わせをした日の写真です。日本語教員、みんな新座キャンパスによく行っているかという、そうではなかったので、自分たちが教えるキャンパス、それから教室の状況、学生たちが住む宿舎はどんな感じなのか、まず見に行きましょうという感じで、打ち合わせの後に新座キャンパスへキャンパスツアーを計画して出かけました。ちょうどバラが美しい季節でした。打ち合わせ後、こんな感じで楽しくキャンパスツアーをして、短プロに臨んでいます。日本語のクラスについては自信もあるし、チームワークもよくて、絶対ここは大丈夫。そこから出発するんですけども、あとはじゃあ、日本文化社会講義のところをどうするかといったところでございます。【スライド①-12】

日本語は大丈夫。じゃあ、あとの部分はというふうになってきたときに、立教に短プロで来てくれる、来たいと思う要因、要素というのをいくつか作っていこうと考えまして、まずは、立教大学での学生生活、学生になるというコンセプトに基づいて、学生番号を付与してもらって、学生証を発行してもらう。それからきちんとした教育のプログラムを作って学んだことに対して単位認定を行う。学生証が使えるので、図書館、それからスポーツジム等の施設もきちんと使うことができる。加えて、立教生との有意味な接触というのがある。キャンパスの中ですれ違うだけではなくて、どんなことを考えている人たちがこのキャンパスにいるのかというようなやり取りができるような場面をつくっていく。

加えて、大学生生活というのを考えたときには、専門科目が欠かせないもので、そこがなかったら大学じゃないですよ。です、日本文化社会講義というのを、今、豊田先生からお話がありましたように、学部の先生方をお願いをして、学部の先生方のご専門のご講義を行っていただいて、立教の専門科目というのがどんな内容で、どんな先生がいらっしゃるのか。そういった機会に触れる設定を作る。いろいろな分野、ご専門の先生方によって、講義が行われた後、そこで得

た知見が生かされた形でフィールドトリップを行う。つまり講義と、日本の文化とか社会の体験というのをセットにした形でやるという、単なる体験じゃないという形で組み込みたい。そういうような思いがございました。

こここのところは本当に国際化推進機構と共同で、どういうふうにやっていったらこういう学生証を発行していただけるんだらうかとか、施設利用はどうなのかといったこと、全て、国際化推進機構との共同でつくっていきました。【スライド①-13】

できたのが、このような、きょう皆様のお手元にあるかと思いますが、こんな感じの青いパンフレットですね。これもちょっと手に取りたいような気持ちになるパンフレットにしたいとして、業者さんにいろいろなことをご相談しながら、一緒に作っていったものです。【スライド①-14】

それから、ホームページですけれども、こんな感じになっていまして、パーティクルツアーで、短期留学をしたらこんな経験ができるよとか、それから、プログラムについてとか、これを見る人が直感的にたどっていくと、ああ、行きたいなというふうに思ってくれるようなホームページ、それから、下にご案内しているのはFacebookですけれども、こういったものを作って広報を展開していきました。【スライド①-15】

実際のプログラムなんですけれども、こちらのスライドは今年の夏の3週間のうちの2週間のスケジュールです。立教の場合、1コマ90分なんですけれども、短期日本語プログラムは、1コマ60分という特別な時間割で動かしています。午前中はみっちり日本語をやります。午後は基本的に日本文化社会講義で、まず、事前学習というのがあって、次にご専門の先生による講義がありまして、これは120分ですね。その後、午後の時間をたっぷりってフィールドトリップを行う。その後、事後学習というのがあって、これを120分行う。これを3週間なので、3セットつくっていく。そのような流れになっています。【スライド①-16】

こちらのスライドは1つのテーマの流れを示していますが、全ての活動に日本語教員が入っています。事前学習があって、学部教員による講義、これは基本的に英語による講義があります。初級の、日本語を学んだこともない日本語力の学生たちが、この科目で立教の専門のコンテンツに触れる機会になります。ですので、基本的に英語で行っていただくというお願いをしています。英語で日本語のコンテンツに触れるということがどうなのかという話も聞くことがあるんですけど

れども、短プロ参加生は、日本語は初級であっても母語で十分に知的な活動を行っている人たちです。ですので、日本語を学ぶとともに、アカデミックな側面を立教の中で学ぶといった機会にしたいと思っております。

フィールドトリップ、ここに本日、3人目のご登壇でお願いしています、立教のRiCoLaSという、異文化コミュニケーション学部で翻訳・通訳者の養成プログラムがあるんですけども、その学生さんたちに活躍してもらって、最後に事後学習をするという流れになっています。学部の先生方がお入りになるのが2番目と3番目のところ、または2番目だけとなりますが、事前学習や事後学習で、どんなことを学生たちが考えていたのかということについては、日本語教員が事前学習と事後学習、それから全てのところに入っていて、クラスの終わりのところでコメントシートを書かせるんですね。それを学部の先生方にお送りするという形で橋渡しをしていく。このようにして連携をしております。【スライド①-17】

実際に、日本語教育センターが、専門の先生方とどんなふうに連携してきたかというのは、この2つの連携のパターンがございまして、1つは、学部の先生へのお願いでございます。これが、先ほど豊田先生がお話をしてくださった通りで、私自身は2012年から立教に来て、所属学部の先生方は、もちろん日常にお会いできるんですが、ほかの学部の先生方にどうやって自分がアクセスしていくんだろうか。しかもお願い事で、どうするのというのが正直な悩みなんですけど、でも、これを実現させることで短プロの成功があると思っていました。

そこで機構の山口先生、それから豊田先生に、こういうことで短プロを成功させたい、こんなことを実現したいんだけど、正直自分としては、どうやって道を開いていっていいか大変困っているというご相談を、ほぼ毎学期、ご相談に上がって、そしてご助言をいただいて、韓先生をご紹介いただいたり、それから、コミュニティ福祉学部の三本松先生を介してカトリン先生をご紹介いただいたりという形で道が開けてまいりました。実際に、1回顔がつながると、いい関係を先生方がつくってくださって、授業も本当にいい形で展開してくださって、私自身も、ほかの学部の先生たちとの関係という意味で、立教の中での世界が広がってきたなと思うんですけども、その関係ができるところまで行きつくのがそれなりに大変で、本当に道なき道をつくっていくような気持ちになることがございます。

先生方には、英語による講義、それからフィールドトリップの行き先をご紹介いただいたり、それから事前学習や事後学習、ここは日本語教員が入ることがほとんどでございますので、こういった活動をする講義の準備ができるのか、また、どのような活動をする、振り返りとして全体の流れをまとめる、そういった活動ができるのかということについてご相談させていただいてきました。

そして、もう一つの側面が、異文化コミュニケーション学部への協力依頼です。立教コミュニティ翻訳通訳-RiCoLaS という名前で呼んでいるんですけどもへの協力要請です。きょうは武田先生に、こちらの実践についてお話をいただきます。**【スライド①-18】**

具体的に、どんな講義が今まで展開されてきたかというのを、お手元の資料ではなく、スライドでごらんいただきたいんですけども、このような形で、毎回3人の先生にお力を借りてきたので、ちょっとご紹介したいと思います。2016年の夏は、経営学部のシュールス先生に、「かわいい」をテーマにご講義をいただいて、竹久夢二の記念館に出かけて、昔と今のかわいいを考えるとといったテーマでございました。2つ目がカトリン先生で、日本のスポーツというテーマを、2020年の東京オリンピックを控えたところで取り上げて下さり、日本のスポーツを見せてくださるといので、新座キャンパスの弓道部とかにつないでくださったり、また、運動会を経験させてくださったりということがありました。観光学部の杜先生には、日本の観光と町の保全というテーマで、川越にフィールドトリップに連れて行っていただきました。

2016年の冬には、韓先生に、日本の観光で、長野の野沢温泉のケースをご紹介いただいて、ゼミ生にも参加していただく形で講義をしていただきました。行き先は川越。それから、GLAPの中込先生、文学部の奈須先生には、日本の女子教育の今と昔ということで、青山女子短期大学に見学に行くといった経験をさせていただいています。また、現代心理学部の中山先生には、認知心理学の観点から、アジアとヨーロッパ地域でどんなふう違うのか。浅草に出かけてインタビューをするというような試みをしていただきました。

今年度の夏には、文学部の加藤先生に、「江戸を旅する」というタイトルでご講義いただいて、江戸東京博物館に出かけています。また、観光学部の庄司先生には、「日本食の資本」というテーマでご講義いただいて、合羽橋に出かけたりしました。また、授業外でもゼミ生と接触する、非常に華やかな企画にも加えていた

できました。それから、現代心理学部の中山先生にもう一度ご登場いただいて、認知の観点から文化差を見るというような、こういったことをしていただきました。今、この冬に向けて準備中でございます。

今日は、これを通してどんなお話につながっていくかというふうなことになるべくは、本日の副題に、「短期日本語プログラムは大学の国際化にどのように生かせるか」と設定しています。短期日本語プログラムというのは、まず、短期生、プログラムに参加してくれた学生が、非常にいい学びの経験をする。ここが大前提になるんですけれども、短プロ生だけでなく、短プロを実施することが、立教に在籍する日本人学生にも留学生にも豊かさをもたらすような企画になっていったらいいというふうに考えていまして、それを実現させていく試みであります。また、それをさらに発展させるにはどうしたらいいかということを考えていく機会にしたいと思っています。【スライド①-19】

ご登壇いただきます先生方をご紹介いたします。まず、お三人の先生に、立教生とのかかわりに重点を持たせた実践例ということで、観光学部の韓先生、それから、コミュニティ福祉学部のライトナー・カトリン先生、それから異文化コミュニケーション学部の武田先生にご登壇いただきます。その後で、これからの日本語教育センターの役割ということで、異文化コミュニケーション学部教授で、日本語教育センターの前センター長の池田先生にご登壇いただきます。【スライド①-20】第2部で、コメンテーターの小唄さん、それから、森田さんに、コメントをちょうだいしたいと思います。【スライド①-21.22】

ここまでが趣旨説明と短期プログラムの概要でございます。ご清聴ありがとうございました。

○数野 丸山先生、ありがとうございます。

では、早速ですが、第1部、韓志昊先生にお話をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

【スライド①-1】

**短期日本語プログラムは
大学の国際化にどのように生かせるか**
 —日本文化社会講義を通した学部との連携—
趣旨説明と短期日本語プログラムの概要

立教大学日本語教育センターシンポジウム2017
 2017年12月2日
 日本語教育センター長・異文化コミュニケーション学部教授
 丸山千歌

【スライド①-2】

本日のシンポジウム
大学の国際化と日本語教育
 —発展的で持続可能な学部・研究科との連携を目指して—

① 趣旨説明と短期日本語プログラムの設計 (20分)

② 授業実践、連携例などの報告4件(各20分)

—休憩—

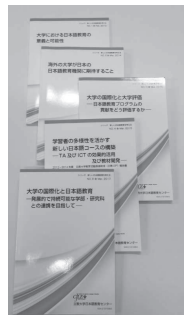
③国際戦略・キャンパスの国際化の観点からのコメント
(各10分)

④ フロアを交えてのディスカッション (40分)

【スライド①-3】

日本語教育センター

- * 2011年 日本語教育センター設置
- * シンポジウム
 - 第1回 2012年12月4日
「大学における日本語教育の意義と可能性」
 - 第2回 2013年12月21日
「海外の大学が日本の日本語教育機関に期待すること」
 - 第3回 2014年12月6日
「大学の国際化と大学評価
-日本語教育プログラムの貢献をどう評価するか-」
 - 第4回 2015年12月5日
「大学の国際化と日本語教育におけるプログラム評価
-過去・現在・未来-」
 - 第5回 2016年12月3日
「大学の国際化と日本語教育-発展的で持続可能な
学部・研究科との連携を目指して-」



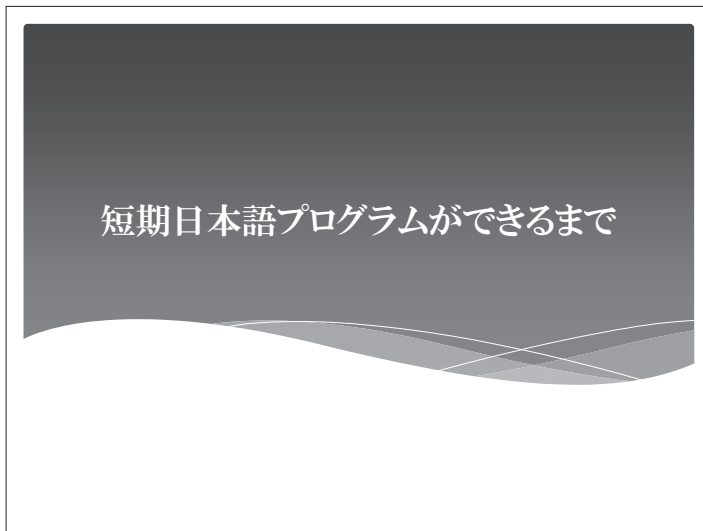
【スライド①-4】

立教大学日本語教育センターの 主な事業

- * 日本語教育プログラム
- * 日本語相談室
- * スピーチコンテスト・漢字検定など




【スライド①-5】



【スライド①-6】

本学において設定された目標(～2024年)

(i) グローバル24 <https://www.rikkyo.ac.jp/global24/>

 立教大学
RIKKYO UNIVERSITY スーパーグローバル大学構想支援課課長 氏

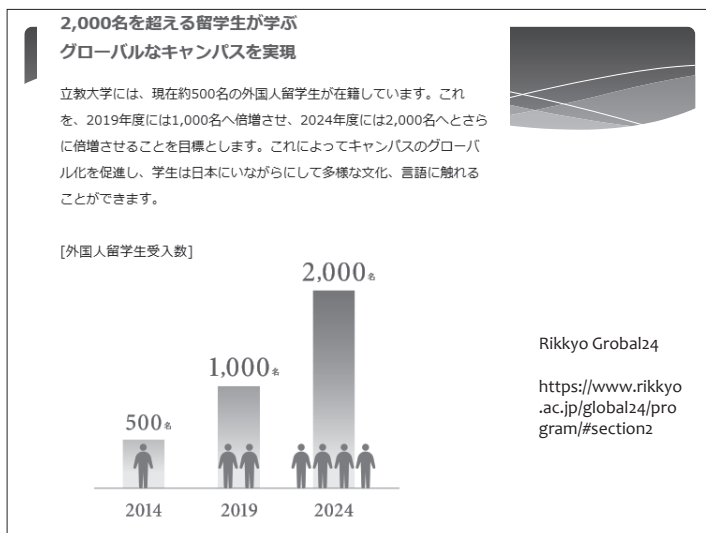
Rikkyo Global 24 立教大学 国際化戦略

立教大学 スーパーグローバル大学構想

世界で際立つ大学への改革

グローバルリベラルアーツ × リーダーシップ教育 × 自己変革力

【スライド①-7】



【スライド①-8】




多様化する受け入れ形態

- * 正規学部留学生
- * 正規大学院留学生
- * 特別外国人学生
- * 短期プログラム生(科目等履修生:単位付与)

【スライド①-9】

立教大学日本語教育センターの 主な事業

- * 日本語教育プログラム
- * 日本語相談室
- * スピーチコンテスト・漢字検定など

短期日本語プログラム
(国際化推進機構との共同開催) 2016～

【スライド①-10】

ヒアリングからの発想

- * 国際センターからの要請で
2013年度から2014年度にかけて国内の短プロ実施校へのヒアリング
- 短プロデザインへ
授業料高め設定 (日本語の位置づけの観点から、機構長の意向)
まずは初級レベルで展開 (国際化戦略の観点から)
定員20名 (日本語教育センターの意向)
- 後発であることを生かして、立教らしさを模索

【スライド①-11】

短期日本語プログラムのコンセプト
立教大学の学生生活を体験

* 日本語クラス

ここは 自信あります！！

【スライド①-12】



2016/5/21 短期日本語プログラム後の新座キャンパスツアー

【スライド①-13】

短期日本語プログラムのコンセプト 立教大学の学生生活を体験

- * 日本語クラス
- * 学生番号付与
- * 単位認定
- * 施設利用
- * 立教生との接触
- * 日本文化社会講義

ここは 自信あります！！

国際化推進機構と協働

専門分野、専門の教員の講義による学びの文脈づくり
フィールドトリップ をセット

【スライド①-14】

広報(パンフレット)

【スライド①-15】

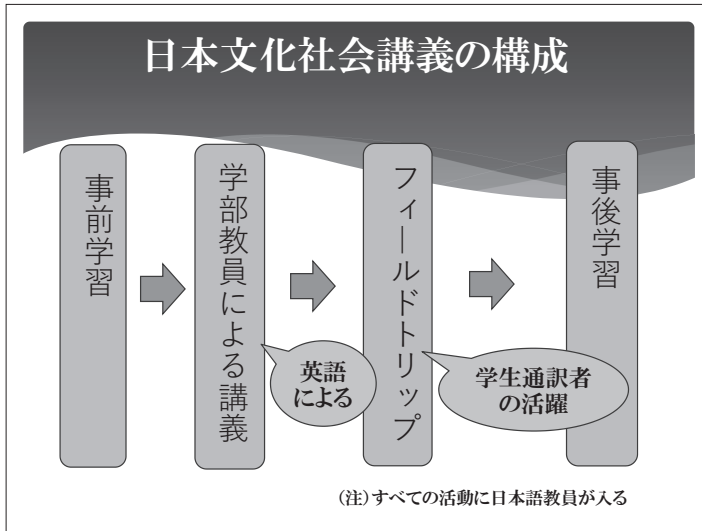
広報 (HP, Facebook)

<https://cile.rikkyo.ac.jp/english/sijp/default.aspx>
https://www.facebook.com/立教大学日本語教育センター-Rikkyo-University-Center-for-Japanese-Language-Education-1594393340880243/?hc_ref=ARS1ulZBtKQqOyn_GwVOLXNJB-N85qwJNqyMbJLRtZ2ZwcHX376hsPrFWP2ToWM5FXY&fref=nf

【スライド①-16】

	月 6月19日	火 6月20日	水 6月21日	木 6月22日	金 6月23日	土 24日	日 25日
1限-3限	入寮日	PT+キャンパスツアー	日本語	日本語	日本語	自由行動	
昼休み		歓迎会 太刀川ホール	トレーニング グジム 講習会				
4限			事前学習① N849	フィールド トリップ 前	フィールド トリップ①		
5限		オリエンテーション/ クラス発表	図書館リエン テーション	文化社会講義①			
		26日	27日	28日	29日		
1限-3限	日本語	日本語	日本語	日本語		自由行動 (ホーム ビジット)	
昼休み							
4限	事後学習 ①	書道アクティ ビティ	事前学習②	フィールド トリップ 前	フィールド トリップ②		
5限		ホームビジットの 説明		文化社会講義②			

【スライド①-17】



【スライド①-18】

日本文化社会講義 専門教員との連携

- ① 学部の先生への依頼
 - 英語による講義
 - フィールドトリップ
 - 事前学習、事後学習の活動テーマ
- ② 異文化コミュニケーション学部
 - 学部の「立教コミュニティ翻訳通訳」RiCoLaSへの協力依頼

【スライド①-19】

本日は...

「短期日本語プログラムは大学の国際化にどのように生かせるか」

- 短プロ参加生も
立教に在籍する日本人学生・留学生も

【スライド①-20】

登壇者紹介

立教生との関わり重点を持たせた実践例

韓志昊氏(観光学部教授)

ライトナー・カトリン・J氏(コミュニティ福祉学部)

武田珂代子氏(異文化コミュニケーション学部)

これからの日本語教育センターの役割

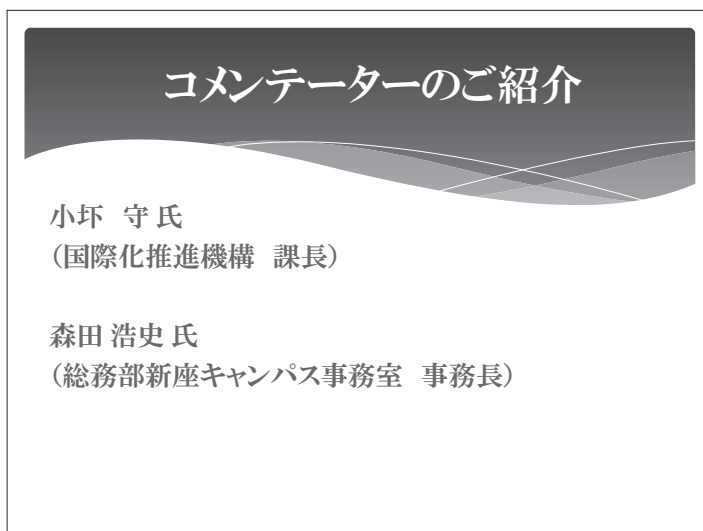
池田伸子氏(異文化コミュニケーション学部教授、

前日本語教育センター長)

【スライド①-21】



【スライド①-22】



【スライド①-23】

全体討議

短期日本語プログラムを大学の国際化に役立てるために